

## ワクチン年1回へ、卒業式はマスクなし容認 政府調整

2/8 日本経済新聞

新型コロナウイルスの5類への移行に向け、政府はワクチンの接種計画やマスクの着用方針の調整を急ぐ。2023年度からは年1回の接種を基本にし、次の接種は年末年始の感染拡大に備えて秋から冬に進める方向で検討する。小中高校などの卒業式については文部科学省がマスクを外しての実施を可能にする方針を決め、近く全国の教育委員会などに通知する。

政府は5月8日に新型コロナを感染症法の5類に位置付ける。現在は2類以上に相当する「新型インフルエンザ等感染症」の扱いで、感染者の待機要請や入院勧告など厳しい措置がとれる。

ワクチンはこの位置付けとは別に予防接種法で3月末を期限に「特例臨時接種」と定めている。国が買い上げ、無料で接種できるようにしている。厚生科学審議会（厚生労働相の諮問機関）の部会は8日、4月以降の接種は年1回程度が適当とする見解をまとめた。

重症化を減らす効果は接種してから半年～1年程度、死亡を防ぐ有効性は10カ月以降も一定程度残るとのデータを確認した。現在のオミクロン型対応ワクチンの1回目接種から一定期間は予防効果が見込めるとみる。

流行状況によっては重症化リスクの高い人は今秋を待たずに追加接種の必要性が生じる可能性があるという指摘がある。高齢者や基礎疾患のある人、医療従事者らを想定する。

コロナ対応の検討状況	
ワクチン接種（厚労省専門部会案）	
接種時期	今秋～冬、以後年に1回
公費負担	23年度末までは無料にするよう部会で意見、それ以降は今後検討
マスク着用（厚労省案）	
基本的な考え方	重症化リスクのある人が人混みに行く際は着用が有効
医療機関	着用を推奨
感染者	今後検討
小中高校などでの卒業式（文科省方針）	
卒業生など	マスクなしでも参加可能とする
(注) マスクは現状屋外では原則不要	

年1回の接種は米国やイスラエルが検討している。英国では重症化リスクの高い人に今秋に接種するのに加え、高齢者や免疫不全者らには今春にも追加で打てるようにする案がある。部会の委員からは23年度末までは無料接種が望ましく、24年度以降は自己負担の導入も検討すべきだとの意見が出た。

マスクの着用は法令で義務付けてはいないが、屋内で距離がとれない場合に着用を推奨するなど着脱ルールの目安を厚労省が示している。屋外ではすでに原則、不要としている。

季節性インフルエンザなどと同じ5類に移行すれば医療体制は平時に近づく。政府はマスクについても1月

に一律の推奨は改めて「個人の判断に委ねることを基本として検討する」との方針を示した。具体的なケースでの考え方を10日にもまとめ、判断材料に示す方針だ。

高齢者や基礎疾患のある人、妊婦などといった重症化リスクの高い人が混雑した場所に行く際は、マスク着用を有効な手段として示す方針だ。季節性インフルエンザでも同様の考えを示している。

医療機関や高齢者施設では着用を推奨する。感染者らがやむを得ず外出する際の着用方針は、専門家の意見も踏まえて慎重に検討する。

厚労省は 8 日、専門家組織「アドバイザリーボード」を開きマスク着用のあり方を議論した。

同組織の専門家有志は学校の式典における着用について地域の流行が落ち着いていることなどを条件に「参列者がマスクを着用しなくてよいことも考慮されうる」との見解を示した。全員がマスクを着用すれば感染リスクは抑えられるとも強調した。

専門家有志は留意すべき点として、体調に不安がある場合は参加を控えることや、会場の十分な換気などをあげた。着用するかどうかは本人の意思を尊重することが重要だとした。

### コロナワクチンは年 1 回、次は秋～冬に 厚労省部会

2023 年 2 月 8 日 14:34

厚生労働省の専門部会は 8 日、新型コロナウイルスワクチンの次の接種を遅くとも今年秋から冬にかけて進めるよう求める見解案を大筋で了承した。感染者や重症者が増える冬に備える。基本は年 1 回のペースが適当との認識で一致した。無料接種は 2023 年度末までの継続を求める。

近く見解をまとめ、厚生科学審議会（厚労相の諮問機関）の分科会で報告する。厚労省は分科会での議論をふまえて 4 月以降の接種方針を固める。

海外の動向や研究データをふまえて判断した。8 日の部会では重症化を減らす効果は接種から半年～1 年程度、死亡を防ぐ有効性は 10 カ月以降も一定程度残るとのデータを確認した。現在のオミクロン型対応ワクチンの 1 回目接種から一定期間は予防効果が見込めるとみる。

流行状況により、重症化リスクの高い人は今秋を待たずに追加で打つ必要性が生じる可能性がある」と指摘する。高齢者や基礎疾患のある人、医療従事者などを想定する。

重症化リスクの低い人には 24 年度以降に接種費用の自己負担を求めることも検討すべきだとしている。

年 1 回の接種は米国やイスラエルが検討している。英国では重症化リスクの高い人への秋の接種に加え、高齢者や免疫不全者などには今春にも追加で打てるようにする案がある。